府立大手前高等学校　定時制の課程
准校長　杉田　真規子

令和３年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

生徒、保護者、教職員が「みんなの大手前　みんなが大手前」と誇れる学校づくりをめざす。
１　生徒のニーズや学力に沿ったきめ細かい授業を展開し、「自己実現のサポート」体制を充実させる。
２　幅広い年齢層や多様な価値観を持つ生徒が、「入ってよかったと実感できる学校」づくりを推進する。
３　現代社会を生き抜いていくための基本的な資質や能力を備え、「社会の一員として自立」した生活を営むことのできる力を養う。

２　中期的目標

１　生徒各自が持つ学力の最大限の伸長　「自己実現のサポート」

（1）生徒の学力の正確な把握
　ア　適性検査や基礎学力テスト等による生徒各自が持つ潜在的な能力の発掘と指導の展開
　　※　数学基本力調査　漢字検定（自作）日本語テストの実施
（2）生徒の自己実現を促進するための取組み
　ア　落ち着いて学習に臨めるための環境整備と規律指導
　　※　学校教育自己診断（生徒）による「授業中は集中している」Ｒ５も肯定率 85%以上を維持。（H30：90%、Ｒ１：87%、R2：85 %、）
　イ　少人数授業や必要に応じた抽出授業による、「授業がわかった」、「授業が楽しい」「力を伸ばし、成長できた」と生徒が思う授業づくりの推進
　ウ　T-ＮＥＴの活用による生徒の英語コミュニケーション力の向上
　　※　英語外国人講師授業アンケートによる満足度Ｒ５も肯定率 85%以上を維持。（H30：92%、Ｒ１：90%、R2：88%）
　エ　ＩＣＴ機器や視覚教材を使った授業の推進
　オ　日本語指導を必要とする生徒への支援体制の整備
　　※　授業アンケートによる「日本語指導の満足度」Ｒ５には 80%以上をめざす。（Ｒ２：70%以上、Ｒ３：75%以上）

２　生徒各自に必要な支援を行える体制づくり（スクールソーシャルワークの組織的体制の充実）　「入ってよかったと実感できる学校」

（1）個に応じた支援体制の強化に向けた取組み
　ア　新入生の情報の収集及び中学校との連携強化による支援方策の検討
　　※　配慮が必要な入学予定生の出身中学校や福祉機関と連絡を取り、情報共有する。
　イ　生徒情報を共有した全教職員による細やかな指導を実施
　　※　卒業率についてＲ５以降も 80%以上を維持する。（H30:90%、Ｒ１:90%、R2：82%）
　ウ　校内生徒支援委員会の機能充実
　　※　ＳＳW同席による校内生徒支援委員会をＲ５も年間 10 回以上実施する。（H30:10 回、Ｒ１:13 回、R2：15 回）
　　※　支援委員会における個別生徒の状況観察（Ｏｂｓｅｒｖｅ）、状況判断（Ｏｒｉｅｎｔ）、支援計画の立案・意思決定（Ｄｅｃｉｄｅ）、実践（Ａｃｔ）、のＯＯＤＡループを確立する。
　エ　生徒が気軽に相談できる場所を増やす。
　　※　外部人材による生徒支援を継続する。

３　キャリア教育と人権教育の充実　「社会の一員として自立」

（1）入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育の実践
　ア　卒業後の生活設計を考えた、生徒個々の進路指導の充実
　　※　進路未決定率を少しでも減少させる。Ｒ５は 15%以下をめざす。（H30:16.7%、Ｒ１:16%、R2:18%）
　　※　学校教育自己診断（生徒）による進路指導の満足度をＲ５には 75%以上をめざす。
　　※　ハローワークや若者サポートステーション等との連携。
　イ　社会人基礎力の養成
　ウ　就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みの充実
　　※　学校斡旋就職内定率についてＲ５も 100%を維持する。（H30:100%、Ｒ１:100%、R2:100%）
　エ　保護者との情報共有、連携をすすめる。
（2）人権教育推進委員会の活性化と人権ホームルームの計画・実施

４　学校力の向上　「みんなの大手前　みんなが大手前」

（1）組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進
　ア　将来の学校像について中・長期的なビジョンを持って検討する。
　　※　企画調整委員会を検討の場とする。
　イ　落ち着いた教育環境の保持及び学校生活のマナーについて組織的な指導体制の構築
　　※　Ｒ５も生徒指導件数をごく少数に抑える。（H30：０件、Ｒ１：２件、Ｒ２：０件）
　ウ　研修と相互研鑽を通じて教職員の力量を高める。
　　※　教職員研修を年間６回以上実施する。Ｒ５も６回以上実施。（H30:６回、Ｒ１:12 回、Ｒ２:6 回）
　　※　研究公開授業週間を教職員同士で学びあえる場になるよう工夫する。
　　※　職員会議の効率化を図り、超過勤務縮減に努めるとともに教職員研修の時間を確保するよう工夫する。
　　※　定時制高校相互の授業実践見学や情報共有、他校の先進事例等の研究を推進する。
　エ　専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化
　　※　外部機関と連携し、情報共有する。
　オ　広報活動の活性化（中学校への広報、学校ホームページや学校案内パンフレットの有効活用）
（2）いきいきとした学校生活を送るための環境整備
　ア　部活動の活性化
　イ　保護者との連携強化
　　※　学校教育自己診断（保護者）による「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」Ｒ５も 80%以上を維持。（H30:89%、Ｒ１:93%、Ｒ２:76%）
　ウ　地域との連携による防災活動の推進
　　※　地域自治体との共催で災害時避難所実習を実施する。Ｒ５まで継続実施する。

府立大手前高等学校　定時制の課程

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和３年 11 月実施分］	学校運営協議会からの意見
※「□」解決された課題と解決方法等（肯定的意見増加の要因等） 「■」明らかになった課題と要因（肯定的意見減少の要因等） 〈生徒〉 □「５ 授業の初めに段取りを示してくれる先生が多い。」（肯定率 92%） 「７ 先生はいじめなどについて真剣に対応してくれる。」（肯定率 93%） 授業の最初に「めあて」や本時の内容と到達目標についてわかりやすく示す方法を、すべての授業において取り組んでいる。事案が生起した際には、担任を中心に分掌、委員会で迅速に対応し、生徒対象の研修等を実施している結果と考えられる。 ■肯定的意見が 80%を下回る項目について 「１ 学校に行くのが楽しい」（肯定率 62%←昨年度より 1.7%上昇） 「８ 担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる。」（肯定率 72%←昨年度より 10 ポイント以上減少） 「14 部活動は、自分にとって有意義な時間だ。」（肯定率 61%） 学年別の数値にもばらつきはあるが、数値の低い４年生（肯定率 35%）の他の項目では、９割近い生徒が「学校生活についての先生の指導」に納得し、７割の生徒が「学校に来ること」に意味を見いだしている。今後もあらゆる場面での生徒対応への努力が求められる。また「６ 悩みや相談を親身になって聞いてくれる先生が多い」や「７先生はいじめなどについて真剣に対応してくれる。」など、他の項目では肯定的意見の割合が高い数値で維持しており、引き続き生徒の相談しやすい関係や場面づくりが必要である。部活動については、入部者の減少がみられるので年度当初を中心とした対策を講じたい。 〈保護者〉未成年の生徒の保護者による回答数：14 □すべての項目について肯定的意見が昨年度に比べ増加した。中でも「１ 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。」（肯定率 79%）は教職員にとっても次年度の教育活動へのモチベーションに繋がる。「３ 子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている。」（肯定率 86%）「７学校は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を育てようとしている。」（肯定率 92%）は 10 ポイント以上増加した。教科等の授業だけでなくその他の側面からも、本校の教育活動への理解が進んでいると考える。 ■保護者の回答率が４割ほどとなっており、回答率を上げる方策の検討が必要である。 〈教職員〉 □「36 学校内で他の教員の授業を見学する機会がある。」（肯定率 100%） 「37 教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」（肯定率 82%） 「12 生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。」（肯定率 88%） 「13 様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で取り組んでいる。」（肯定率 82%） 「16 この学校では生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている。」（肯定率 94%） 「17 生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。」（肯定率 100%） 「23 この学校は、情報リテラシーや情報モラルを高める教育に取り組んでいる。」（肯定率 88%） 「24 人権尊重に関する様々な課題や社会ルールを守る意識育成の指導について、全教職員で話し合っている。」（肯定率 77%） 授業の指導方法等への研究・工夫・改善への取組みが学校全体で着実に進んでいる。また学校生活全般にわたって生徒の指導についての肯定的意見が増加している。今後も学年間での指導内容の共有・継続・改善を実践し、分掌や委員会が明確にした方針等を迅速に共有・実践することで、より向上をめざしたい。 「25 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。」（肯定率 71%） 「34 校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施され、教育実践に役立っている。」（肯定率 82%） 「35 初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている。」（肯定率 77%） 上記 3 項目については肯定的意見が大きく上昇した。今年度のスタート時点から学年や分掌単位で、業務の平準化等への取組みが行われた結果とも考えられる。次年度の新体制についても教職員から聴き取ることで	**※「■」委員意見　　「→」学校説明** **【第１回（７月２日開催）】** １　令和３年度学校経営計画及び学校評価について ■生徒の年齢構成等の比率を示してもらえなければ学校の全体像をイメージできないため、意見するのは困難である。 ■「卒業率 80%以上を維持する。」とあるが、残りの 20%の生徒はどうなっているのか不透明である。 ■70 歳以上の生徒にどのような支援を行っているのか、上記の２点とあわせて、あらかじめ資料の提示をすべきである。 ■日本語支援を必要とする生徒の現状はどのようになっているか。 →学校設定教科科目「日本語」の開講、ＴＴによる支援、府の事業等による外部資源（人材）を活用し、当該生徒が安心して学校生活を送れるよう学校全体で対応している。 ■全教職員が生徒情報を共有するためにどのような手段を取り入れているか。 →毎日の「職員連絡会」で共有している。 ■障がいのある生徒の状況はいかがか。また、車いすの生徒への対応はどのようにされているか。 →個別対応、ＴＴによる支援、府の事業等による外部資源（人材）を活用し、当該生徒が安全に安心して学校生活を送れるよう学校全体で対応している。 ■母集団の数字が少ないことによるパーセンテージの優位性に鑑みて、学校教育自己診断の結果（数字）に一喜一憂することなく教育活動に取り組んでいただきたい。 ■生徒が気軽に相談できる場所は確保できているか。 →定時制の課程で使用できる教室等は極めて少ない。相談室やコモンスペース等で教員から生徒へ積極的な声掛けや見守りを行っているところ。 ■社会の状況やどのような働き方があるのかなどキャリア教育と人権教育をリンクさせた取組みを進めていただきたい。 →ＳＳＷ、就職活動支援員等の外部資源（人材）を活用して取組みを進めているところ。 ■「学校力の向上」に係る学校教育自己診断の結果より、教職員がやりがいの感じられるような仕組みづくりを進めていただきたい。 ■今どきの若者はインターネットを活用している。科学部やバドミントン部の活躍などの明るい題材（ニュース）を学校ＨＰに掲載することで本校の魅力発信につながると思うし、生徒の励みにもなる。また、部活動のＰＲや活性化にもなるのではないか。ぜひ取り組んでほしい。 ２　令和４年度使用教科書の選定について ■承認 **【第２回（11 月 18 日開催）】** １　第１回授業アンケート集計結果及び分析結果 →令和２年度第１回の評価平均「3.37」から「3.43」に上昇（過去５年間で最高値）。 →「授業に対する生徒の取り組み姿勢」「生徒による授業評価」「授業に関する生徒意識」すべての分野で肯定率 84%超。 →評価平均・肯定率が上昇した理由として考えられること。 ・小中学校で不登校だった生徒においては、学校に登校することで他者と繋がっていることへの安心感や自身の居場所が確保できたことで、自身のペースで学校へ安定的に登校できるようになった。 ・高齢の生徒においては、諸事情により高校に通い学ぶことができなかった環境等にあったが、学べることへの喜びを感じている。 ・外国にルーツを持つ生徒においては、入学前から「大学進学」という明確な目標を掲げている。 ・卒業予定生においては、社会に出ていくことや自立することをしっかりと意識し、行動できるようになっている。 →生徒一人ひとりが成長する、変容する背景として考えられること。 ・誰一人取り残すことのない「わかりやすい授業づくり」をめざした教員の様々な工夫や校内努力によるＴＴの実践、生徒が積極的に学ぼうとする仕掛けづくりに全教職員で取り組んでいる。 ・外部資源（人材等）の有効活用。 ・様々な課題について教職員間で共有し、自分事としてとらえ、全教職員で向き合えている。 ２　授業見学 ■高齢の生徒、外国にルーツを持つ生徒、障がいのある生徒等へのサポートが行き届いている。 ■スマートフォンを見る、寝ている、外ばかりを見ているなどの生徒がいない。 ■みんな前向きで、生徒が変わってきていることを実感した。 ■生徒が解答を導き出す際に躓く場面が見受けられたが、途中で諦めることなく最後まで粘り強く取り組めていた。

組織体制の確立をめざす。
■「８この学校では、創意工夫を生かした「いきいき」の時間を実施している。」（肯定率 69%）
「21 学校として部活動の活性化について工夫している。」（肯定率 59%）
「32 この学校では、図書館が生徒に活用されている。」（肯定率 31%）
本校の「総合的な探究(学習)の時間」である「いきいき」については、昨年度より肯定的意見が減少した要因を確認し、次年度の計画に向けて改善点を明らかにしたうえでの取組みが必要である。部活動の活性化については、年度当初を中心に年間を通じて、部員増加や活動内容の充実を図るための具体的な取組みを実施していく必要がある。図書館の活用については国語の授業で図書館を利活用し生徒に親しみをもってもらう工夫を重ねてきているが、他教科での利活用も検討する。

■（保護者の立場から）子どもはクラスメートにも恵まれ、毎日楽しみながら通学できている。

３　現在の本校の様子・取組み等
→令和４年度より新学習指導要領が年次進行で施行されるため、全教員による研究授業や教科ごとの振り返りによる授業改善の実践（ＰＤＣＡサイクル）や観点別評価への対応を進めているところ。
→１人１台端末の校内活用に向けて教職員研修を実施した。使えるようになるまで時間を要する生徒もいるが、できることから実践している。生徒個々の現状に合わせた対応も検討している。
→外部資源の活用、外部連携を積極的に行っている。
■教員をめざす学生が多く在籍する大学に積極的に働きかけ、生徒支援体制の更なる充実に取り組んでみてはどうか。
→クラブ活動でバドミントン部が近畿大会に出場予定。

【第３回（令和４年２月 16 日書面による開催)】

１　令和３年度 学校評価（案）について　【承認５　否認０】
■全体的に、学校評価に係る数値については全体の母数が小さいため少しぐらいの変動に一喜一憂することなく、長いスパンで校長先生が立てられた方針を見ていかれればよいと思います。ただ、顕著に好転していること、顕著に悪化してしまったことについては、まずは原因を明確にした上で、次に活かす、または改善策を講じることが必要かと思います。（１（２）カ：図書館の活用促進、４（１）ア：将来の学校像について中・長期的なビジョンを持って検討などです）
■１（２）カ「授業で図書館を使用することで図書の活用を促進する」について、「授業で図書館を活用する」という方法が貸出数の増加にはあまり有効でなかったということでしたら、「各教科による利活用を促す」というあまり変わりのない方法を続行するだけでよいのかと少し思いました。
■２（１）ウ「校内生徒支援委員会の機能をさらに充実させる」について、独自の「アセスメント・プランニングシート」の活用などを通してＳＳＷとのケース会議に力を注いでおられるようすが伝わって来ました。せっかくの取組みですので、運営協議会の会議資料としてシートの様式だけでも委員に見せておいていただければＯＯＤＡループのイメージができ、すぐれた取組みを協議会全体で共有することができたかと思います。このことに限らず、実践例やデータを資料としてご提示いただくと運営協議会の議論の活性化につながるかと思います。
■３（２)「人権教育推進委員会の活性化と人権ホームルームの計画・実施」について、人権研修の実施回数も大事かとは思いますが、学校が今どういう課題意識をもって進まれようとしているのかが明確になる機会ですので、ぜひとも内容(テーマだけでも)を書いていただければと思います。
■４（１）ア「将来の学校像について中・長期的なビジョンを持って検討する」について、学校教育自己診断（教員）における組織体制や人事に関する自己評価の内、３つが顕著に好転していてよかったと思いました。どのような取組みによってそうなったのかについてですが、記載されている「主任を置く体制」が「有効に機能しているのかを企画調整員会で検討」されたということと関連があるということでしょうか？評価欄の「継続を決定した」とあるのは、(「主任を置く体制」が有効に機能しているので）この体制を継続するという理解でよろしいでしょうか。「毎年継続するのかを検討」するのでしょうか？また有効に機能していなければ廃止ですか？しかし、有効に機能していないということは、担任が大変になっているということなので、「主任を置く体制」に替わるものが必要になってくるのではないのでしょうか？私だけかもしれませんが、あまり理解できておりません。
■４（１）オ「学校ホームページや学校案内パンフレットの有効活用」について、ブログによる発信が３倍になり、頑張っている大手前高校定時制の日々の姿がよく見えるようになりました。

２　令和４年度 学校経営計画（案）について　【承認５　否認０】
〔２ 中期的目標「４ 学校力の向上 「みんなの大手前 みんなが大手前」」〕
■（１)「働き方改革に係る取組みを活用し、組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進」について、「働き方改革」の文言が加わったことはよいと思いました。ただ、以下に示された具体的な項目が、タイトルに「働き方改革」の文言のない令和３年度と同じなので、具体的な方策として新たなものを入れていただければ本気度がより伝わりやすいと思います。
■（１）イ「落ち着いた教育環境の保持及び学校生活のマナーについて組織的な指導体制の構築」について、「Ｒ３：１件」の内容が気になる。
■（２)「学習指導要領に基づく授業改善と評価の取組み」について、新たに加えられた目標かと思います。いよいよ令和４年度より高等学校における新学習指導要領が年次進行で実施されます。今回の改訂の主軸は授業法の改革にあるので、鮮明に打ち出されたのは非常によかったと思います。それだけにどこにポイントを置いた授業改善なのかを、新学習指導要領の趣旨にもとづきキーワードとして入れていただければ、教員もどのような授業をめざせばよいのかがわかります。それが共有できれば、研究授業も活性化するのではないでしょうか。

３　学校教育自己診断まとめについて　【承認５　否認０】

	■基本的に少しの変化はあまり気にせず、顕著に好転しているものについては原因を明確にして次に活かし、低迷が続くものについては原因を分析して新たな方策を打ち出すことが肝要かと思います。 ＜学校経営に関するもの＞25（教職員が意欲的に取り組める環境）、26（分掌・学年間の円滑な連携）、27（教職員間の意思疎通・意見交換）は顕著な好転ですが、令和2年度に特別な事情があったことも考えられます。32（図書館が生徒に活用）については明らかに低迷を続けている（先生方自身がそう思っている）項目なので、授業改善と連動させながら取り組んでいかれる課題のひとつになるのではないかと思いました。 4　授業アンケート評価の変化について　【承認５　否認０】 ■コロナ下さまざまなご苦労をされたことと思います。経年変化の把握のためには、安易に項目を増やすべきではないのかも知れませんが、ひとり一端末時代を迎え、それに特化した質問項目が必要になってくるのではないかと思いました。ご検討ください。また、１～９（全項目の平均）だけでなく、８・９（生徒の意識）の数値を別に出されています。これを重視されることについてはよいと思うのですが、１・２の生徒さんの取組み状況とともに挙げていただければ、更に実態が把握しやすくなるのではないかと思っています。ご検討ください。 5　その他 ■１年間ありがとうございました。授業を見学できて、とても良かったです（子ども達の日頃の様子が見られました）。 ■全体的に一人ひとりの生徒の状況を把握し、ていねいに対応されている。 ■いつもありがとうございます。

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標［Ｒ２年度値］	自己評価
１　生徒各自が持つ学力の最大限の伸長	（１）生徒の学力の正確な把握	（１） ア　基礎学力テスト※や適性検査等により、生徒の学力を正確に把握する。 ※数学基本力調査：中学段階の到達度をみる。 漢字検定（自作）：当用漢字の習得度をみる。 日本語テスト：日本語運用能力をみる。 ・１学年では、入学時に基礎学力テスト等を行い、学力、習熟度を把握して、授業の重点内容に反映させる。 ・２、３、４学年では、高校在学中に適性検査等をおこない、各自が持つ潜在的な能力や適性を把握して、キャリアを考える資料とする。	（１） ア ・授業アンケートの項目「授業の進度や難易度は自分にとって適切である」の肯定率 80%以上[82%] ・最終学年（３年次、４年次）までに必要な生徒に適性検査等を実施できた。[実施できた]	（１） ア肯定率（Ｒ３:85%）（○） １学年４月に基礎学力テストを実施（○） 数学：テストの結果を受けて基礎的内容の充実を図った。 漢字検定（自作）：全学年対象で１月に級別で実施済。各級の上位者には全校生徒の前で表彰式を行いモチベーション向上につながった。 日本語テスト：入学時に日本語サポートの専門家による４技能の日本語運用能力をみるテストを行い、日本語支援の方策を決定した。 ・３年生は２月に実施予定。２年は適性検査実施時期を検討し、本年度の実施は見送った。４年生は、昨年度実施した検査結果について、就職応募先を見極める１つの材料として活用した。（○）
	（２）生徒の自己実現を促進するための取組み	（２） ア　落ち着いた学習環境で学べるようにするため、全教員で授業中の規律指導を行う。 イ 少人数授業を行い、「授業が楽しい」「授業がわかった」「力を伸ばし、成長できた」と生徒が思う授業づくりに努める。 ウ　T-ＮＥＴ講師の活用により英語コミュニケーション力の向上を図る。 エ　ＩＣＴ機器や視覚教材を活用した、魅力的でわかりやすい授業実践を進める。	（２） ア　「授業中は集中して先生の話を聞いて学習に取組んでいる。（授業アンケート）」の肯定率 85％以上[85%]を維持する。 イ　「授業内容に興味・関心を持つことができていると感じている（授業アンケート）」の肯定率 85％以上[82%]を維持する。 ウ ・外国語講師に関する授業アンケートにおいて授業満足度 85％[88%]を目標とする。 ・スピーキングテストを各学年１回[各学年平均 2.5 回]実施し、英語を「話す力」の育成に努める。 エ　学校教育自己診断の以下の指標 ・「教え方に工夫している先生が多い」	（２） ア肯定率（Ｒ３:90%）（○） イ肯定率（Ｒ３:85%）（○） ウ ・授業満足度（Ｒ３:97%）（◎） ・スピーキングテスト実施回数（◎） １年３回　２年３回 ３年２回　４年２回 （Ｒ３:89%）（◎）

			（生徒）の項目の肯定的意見 80%以上[89%]を維持する。 ・「生徒の学習意欲に応じて学習指導方法や内容について工夫している」（教員）の項目の肯定的意見 85%以上[100%]を維持する。 ・「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」（保護者）の項目の肯定的意見 70%以上[65%]をめざす。	（Ｒ３:100%）（◎） （Ｒ３:86%）（◎）
		オ　日本語指導を必要とする生徒への支援スキルを向上させる講習会を行い、支援方法を共有する。	オ　授業アンケート「日本語指導の満足度」70%以上[100%]をめざす。	（Ｒ３:100%）（◎）
		・学外の多文化教育研修等に参加して、その知見を共有する。	・研修に参加して得た知見を関係職員に毎回、回覧して報告し、共有する。	・職員会議の時間枠短縮に向けた取組みを実施し、研修に参加した教員の報告により職員会議内で共有した。（○）
		カ　授業で図書館を使用することで図書の活用を促進する。	カ　図書の貸出数を前年度[25 冊]より増やす。	・前年度より減少［14 冊］ 各教科からの対応策を共有し、利活用を促す。（△）
２　生徒各自に必要な支援を行える体制づくり	（１）個に応じた支援体制の強化に向けた取組み	ア　中学校や福祉機関等と連携して、新入生の生徒情報を収集し、「高校生活支援カード」に集約する。	ア ・「高校生活支援カード」の作成、活用率 100%[100%]を維持する。 ・入学した生徒の出身中学へ訪問して聞き取った内容をＳＳＷと共有する。	（Ｒ３:100%）（○）
		イ全教職員が生徒の情報を共有し、細やかな指導で卒業まで個別支援を行う。 ・生徒一人ひとりへの細やかな支援方策を検討する。	イ卒業率 80%以上[82%]を維持する。 ・生徒による学校教育自己診断の項目「先生たちは、自分たちが困っていることについて支援してくれる。」の肯定率 75%以上[98%]をめざす。 ・教職員による学校教育自己診断の項目「生徒一人ひとりへの細やかな支援の方策を検討している。」の肯定率 75%以上[94%]をめざす。	（Ｒ３:94 %）（◎） 〈生徒〉先生たちは、自分たちが困っていることについて支援してくれる。（Ｒ３:87%）（◎） 〈教職員〉生徒一人ひとりへの細やかな支援の方策を検討している。（Ｒ2:82%）（○）
		ウ　校内生徒支援委員会の機能をさらに充実させる。 ・ＳＣ、ＳＳＷとのケース会議により個別生徒の状況観察（Ｏｂｓｅｒｖｅ）、状況判断（Ｏｒｉｅｎｔ）、支援計画の立案・意思決定（Ｄｅｃｉｄｅ）、実践（Ａｃｔ）、のＯＯＤＡループを確立する。	ウＳＳＷ同席による校内生徒支援委員会について年間 10 回以上[15 回]実施を維持する。 ・ＯＯＤＡループが確認できるようにケース会議の記録用紙書式「大手前アセスメント・プランニングシート」を支援委員会で資料として毎回活用する。	（Ｒ３:13 回）（◎） ・「アセスメント・プランニングシートｖｅｒ．９」を活用した。 ・今年度は小委員会を８回設定し、校内生徒支援委員会に提示する情報や内容の事前整理等の点で有効に機能した。（◎）
		エ　生徒が気軽に相談できる場所を増やす。	エ　学校教育自己診断（生徒）の以下の指標 ・「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の項目について肯定回答率 80%以上[93%]を維持する。 ・「担任や学年の先生以外にも保健室や他の場所で相談できる」の項目について肯定回答率 80%以上[85%]をめざす。	（Ｒ３:85%）（○） ・校内の「コモンスペース」と呼ぶ場所にいる生徒に、全教職員が個別に声掛けをすることで、相談できる雰囲気づくりを行っている。 （Ｒ３:72%）（△）
３　キャリア教育と人権教育	（１）入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育の実施	ア　卒業後の生活設計を考えた、生徒個々の進路指導の充実。	ア進路未決定率を少しでも減少させる。18%以下[16%]をめざす。 ・学校教育自己診断（生徒）による「進路指導の満足度」肯定回答率 70%以上[91%]をめざす。 ・ハローワークや若者サポートステーション、障がい者就業・生活支援センター等と連携し、就労指導のスキルを向上させる。３か所以上の連携先を持つ。	（Ｒ３:６%）（○） 〈生徒〉将来の進路や生き方について考える機会がある。（Ｒ３:85%）（◎） 連携先８カ所（◎） うち新規連携４カ所
		イ　社会人基礎力の養成	イ	

の充実		・自己有用感を高め、自覚的に行動できるスキルを高めるために、アサーション・トレーニングやコミュニケーションスキル向上を目的としたワークショップを実施する。	・１年生を対象にアサーション・トレーニングやコミュニケーションスキル向上のワークショップを１回以上[１回]実施する。	（Ｒ３：１回実施）（○）
		・　就労意識の向上と社会体験を積むことを目的にアルバイトへの挑戦、継続を支援する。	・新たにアルバイトに取り組む者とアルバイトを継続する者の合計数がアルバイト経験を勧めた生徒の50%以上[100%]となることをめざす。	・アルバイト開始の相談を受けた者は全員アルバイトを開始した。 （Ｒ３:100%）（◎）
		ウ　就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みを充実させる。	ウ　学校斡旋就職希望者の内定率100%を維持する。（Ｒ２:100%）	（Ｒ３:100%）（◎） ・７人中７人内定。 （Ｒ３:27 回）（◎）
		・各学年の進路ＨＲや進路講演会、個別面談等を通じて就労、進学へ結びつける指導を推進する	・卒業予定者の進路ＨＲについて年間15 回以上[22 回]を維持する。 ・１年生、２年生、３年生については、年間４回以上実施する。 ［１年５回、２年４回、３年 14 回］	（Ｒ３：１年７回、２年５回、３年 15 回）（◎）
	（２）人権教育推進委員会の活性化と人権ホームルームの計画・実施	エ　保護者に学校での指導の様子を知らせ、協力を呼びかけるため、「進路だより」を発行する。	エ　「進路だより」について年間５回以上［５回］の発行を維持する。（配付、ホームページにアップして周知）	（Ｒ３：５回）（○）
		（２）人権教育推進委員会を活性化させ、本校において系統立てた人権ホームルームができるよう、準備を進める。	（２） ・人権教育推進委員会企画のもと、人権意識を高める教職員向け人権研修を１回以上［１回］実施する。 ・生徒向けの人権講習会（外部講師の招へいも含む）を１回以上［１回］実施する。	（Ｒ３：２回実施）（○） （Ｒ３：１回実施）（○）
４ 学校力の向上	（１）組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進	ア　将来の学校像について中・長期的なビジョンを持って検討する。 ・　Ｒ３年度より実施する「学年団に担任と担任をサポートする主任をおく体制」について有効に機能しているか企画調整委員会で検討する。	ア ・学校教育自己診断（教員）の以下の項目について前年度より肯定率が上昇している。 「問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。」[56%] 「問題行動防止のための早期指導に学校全体で取組んでいる」[56%] 「適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」[45%] 「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」[56%]	Ｒ2 実施「育成支援チーム(拡大企画調整委員会)」の成果を受けて、９月より首席会を設置。今年度実施の「担任と主任をおく体制」について、企画調整委員会の検討を経て継続を決定した。(◎) （Ｒ３:88%）（◎） （Ｒ３:82%）（◎） （Ｒ３:71%）（◎） （Ｒ３:71%）（◎）
		イ　落ち着いた教育環境の保持及び学校生活のマナーについて組織的な指導体制を構築する。	イ学校生活のマナー徹底を図り、生徒指導件数をごく少数[0 件]に抑える。	（Ｒ３:生徒指導件数１件）（○）
		ウ　研修と相互研鑽を通じて教職員の力量を高める。 ・研修ニーズを吸上げて計画し、実施後に教育実践に役立ったかを検証するＰＤＣＡサイクルで教職員研修を実施する。	ウ ・学校教育自己診断（教員）の以下の項目について前年度より肯定率が上昇している。 「研修組織が確立し計画的に研修が実施され教育実践に役立っている」[56%] ・ＰＤＣＡサイクルに則った教職員研修を年間５回以上［６回］実施する。	ウ （Ｒ３:82%）（◎） （Ｒ３：６回）（○）
		・職員会議の効率化を図ることで生み出された時間に教職員研修を実施する。	・職員会議について、必要な回数のみ行うこととし、実施時期、回数を見直す。［新規］	・事前に設定した時間枠内での実施、各担当からの提示項目の明示・精査を実施した。その結果を受けて、次年度の回数は減らす方向で計画済。
		・研究公開授業週間を教職員同士で学びあえる場になるよう工夫する。	・研究公開授業週間用授業参観シートを作成し、活用する。	・教務部主導で事前事後の計画を立案、実施した。そのプロセスとして「授業研究メモ」を活用した。（○）
		・定時制高校相互の授業実践見学や情報共有、他校の先進事例等の研究を推進する。	・研修に参加して得た知見を共有すると共に 11 月の研究公開授業週間の	

			授業実践で活用する。	
		エ　専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化	エ　区の社会福祉協議会と連携し、校内フードバンク（仮称）を実施する体制をつくる。	・定時制高校相互の授業実践見学１名で１回（○） ・「物資食料支援チーム」として活動し、校内では必要に応じ、物資を配付している。（◎）
		オ 広報活動の活性化 ・中学校への広報で本校の良さをアピールする機会を増やす。	オ ・中学校向けの学校説明会を２回［２回］行う。 ・中学校への出前授業を行う。［１回実施］。 ・大阪市立定時制高等学校進学説明懇談会に参加する。［参加し定時制高校の説明を実施］	（Ｒ３：２回実施）（○） （Ｒ３：実施できず：コロナ禍の影響で中学校より辞退の連絡あり。）（―） （Ｒ3:参加し、定時制高校の説明を実施）（○）
		・学校ホームページや学校案内パンフレットの有効活用	・学校ホームページのブログ発信回数を増やし、写真も掲載する。月１回以上［月１回以上のべ 22 回発信］。	（Ｒ3：月平均６回以上で、のべ 65 回(4 月～12 月末)発信）（◎） 学校案内パンフレットを更新し、中刷りに「大手前(定)のつよみ」を記載した。（○）
	（２）いきいきとした学校生活を送るための環境整備	ア　部活動の活性化	ア 部活動をする生徒数を前年度より増やす［17 人減少］。	部活動をする生徒数（Ｒ３:18 人）（△）1 年生にはオリエンテーションの際にクラブ員や顧問による勧誘を実施したが減少した。
		イ　保護者との連携強化	イ学校教育自己診断（保護者）における「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」75%以上［76%］を維持。	（Ｒ３:85%）（◎）
		ウ　地域との連携による防災活動の推進	ウ ・学校防災アドバイザー派遣事業を活用し、定時制と地域自治会の共催による災害時避難所実習を実施する。	・実施した。（○） ・「学校防災アドバイザー派遣事業」を活用して作成した災害時の対応マニュアルについて防災士の指導助言を受け、点検した。（○）